

賞スルニコレヲ第一トス、櫻花ノ品甚多シ、アゲテカゾヘガタシ、單アリ、八重アリ、八重ニシテ赤ヲ帶ルアリ、緋櫻ト云、青ヲ帶ルアリ、アサギ櫻ト云、香有リ、

〔東雅樹竹〕櫻サクラ略中、むかし朱舜水に、この櫻花の事を問ひしに、櫻桃は此にいふサクラ

にあらず、唐山にしても、もし此にいふサクラあらむには、梨花海棠の如き、數ふるにたらじと答

へられしと、我師也し人は語りき、琉球、噶蘭陀等の國人のいひし所は、前の楓樹の下に見えたり、

朝鮮に此物ありやなしやの事を、對州の人に問ひしに、かしこにある館中に、この楊貴妃とい

ふ櫻を移し植て、其花の開きし時に、王城の人の來り見しに問ひたりけるに、かしこにもある也、

其樹名をば、榛といふ也といひしと答へたり、正徳聘使の時に、其學士の稻若水に對へし所を見

れば、彼國にも此物はなき也、さきに榛の字をもて對へしといふは、榛亦作柰ものをいひしと見

えたり、

〔松屋筆記 六十五〕櫻

同書夜談に、客問テ云ク、西土ニハ櫻ナク、朝鮮ニハ櫻アリト云信ナルニヤ、答テ云ク、西土ノ書ニ

ハ櫻ミヘズ、去ル戊辰ノ年朝鮮人ニ尋シニ、櫻アリテホンナモト云ト云ヘリ、

〔頭註〕櫻ノ始ハ御鎮座傳記ニ見ゆ、櫻ヲ花ト云フ、梅花无盡藏六ノ十五丁ウ、

〔萬葉集三〕歌 鴨君足人香具山歌一首并短歌

天降付天之芳來山霞立春爾至婆松風爾池浪立而櫻花木晚茂爾與邊波鴨妻喚邊津方爾味村左

和伎百磯城之大宮人乃退出而遊船爾波梶棹毛無而不樂毛己具人奈四二、

〔萬葉集八〕春雜歌 櫻花歌一首并短歌

媾婦等之頭插乃多米爾遊士之獲之多米等敷座流國乃波多氏爾開爾鷄類櫻花能丹穗日波母安

奈何